

## 1 学校教育目標

明るい子 強い子 考える子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・安全で笑顔あふれる学校 ・保護者・地域から信頼される学校	・子供も教職員も生き生きと輝いている学校
○児童・生徒像	(明るい子) 明朗で礼儀正しく、情操豊かで自他を尊重できる児童 (考える子) よく見、よく聞き、よく考えて自己表現し、行動する児童	(強い子) 健康で、きまりを守り、責任を果たす児童 めあてをもち、意欲的に学習する児童
○教師像	・子供の人権を守り、子供とともに汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ・指導力の向上を目指し、主体的・意欲的に研修に励む教師	・子供のよさを認め、励まし、高める教師 ・課題意識をもち、組織的に課題に対応できる教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### (学校の現状)

○学級数19学級、児童数580名超、創立55周年を迎える。学区域は、南北に2kmと長く、中央を環七が東西に走り、学区を二分している。保護者・地域の方々は、学校教育に理解があり、協力的である。

児童は、明るく素直で、子供らしい児童が多い。学習中は、規律が守られ、落ち着いて学習に取り組む児童が多い。教職員は、若手教員が多く、一つの授業や行事に、熱心に指導に取り組んでいる。足立スタンダードを軸にした授業を展開し、思考力・判断力・表現力を高める授業を目指し、取り組んでいく。

### 重点的な取組事項－1 学力向上

○昨年度の区学力テストでは、目標値通過率 国語95.1% 算数96.2% である。目標である85%を大きく上回った。領域別正答率でも、全ての項目で全国を上回った。特に、「書くこと」の領域では、全国比130ポイントで、足立スタンダードに基づいた授業の改善、課題の設定、発問の工夫などを行った成果が表れた。しかし、5%の児童は、目標値を達成できていない。今後も個の習熟度に応じた指導を充実させるために、児童の習熟状況に応じた指導法や学習材、指導形態を工夫・改善していく。また、読解力・思考力・活用力・応用力を高める指導法の改善、学習材の工夫に取り組む必要がある。

### 重点的な取組事項－2 豊かな心をはぐくむ 規律ある行動

○コロナ禍であることから起因する、児童の心の不安定さから予想されたいじめなどは大きなものはなかった。また、褒められると「ありがとうございます。」と返事ができるなど、規律ある生活の中で、安定した心が育っていると考えられる。その素直な心・思いやりの心をより高めていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心を育む	◎	◎	◎	◎	◎
3	健康な体づくり	◎	◎	◎	◎	◎

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
○基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ○読解力・活用力・応用力の育成		○区学力調査目標値通過率 国語85%以上 算数85%以上		○区学力調査目標値通過率 国語93.4% 算数91.0%		区学力調査では、目標値通過率が90%を超えており、ほとんどの児童は、概ね学習内容が身に付いている。今後、更に引き上げを図っていく。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継	AIドリルの活用	全児童 国語 算数 基礎技能中心	授業・パワーアップタイム週に1,2回	・担任 ・授業：学習内容の定着を図るため、数問取り組む。 ・パワーアップタイム：個別に学内容の定着を図る必要がある内容について取り組む。	教員の自己評価 児童の月間回答数全学年200問	教員の自己評価95%以上実施 児童の達成率90%	教員の自己評価100% AIドリル活用月間における平均解答数594問	各学年決められた曜日でAIドリルを活用した。	○

2 継	ICTの活用	全児童 全教科 思考力 向上	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、専科</li> <li>・児童がより分かるためにICTを活用した授業を行う</li> </ul>	週 の予定表 教員の自己評 価	全教員が	週3回以上ICTを活用した授業を行うについては、11月までが90%、12月以降、100%となった。	前年度に引き続き、校内研究のテーマを「思考し、表現する力の育成～ICTを活用した授業づくり～」と設定し、「ICTの効果的な活用方法について深めていった。	○
3 継	個別指導 (さかのぼり学習)	全児童 国語 算数	年間 15時 間程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、専科、学習支援ボランティア</li> <li>・習熟度別少人数のグループ学習を通して既習内容の習熟を図る</li> </ul>	単元テスト (思考)	目標値を70%として通過率 低学年90% 中学年85% 高学年80% 以上の人数	目標値通過率 低学年84% 中学年81% 高学年79%	国語：読解力を高める問題に取り組んだ。 算数：この課題に応じた計算の技能、思考力・表現力の向上を図る問題に取り組んだ。	△
4 継	パワーアップタイム	全児童 国語 算数	5校時 前の 10分間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任</li> <li>・東京ベーシックドリルやAIドリルなどを使い、学習内容の復習・確認を行い、定着を図る。</li> </ul>	単元テスト 知識・技能領域 漢字単元・まとめテスト	児童の90%以上が8割以上の正答率 児童の90%以上が漢字のテストで8割以上の正答率	90%以上の正答率 国語：71% 算数：82%	各学年、算数の計算に重点的に取り組み、知識の定着が見られた。AIドリルは、曜日を決めて活用した。	○
5 継	足立スタンダードに基づいた授業展開	全児童 全教科	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足立スタンダードの徹底</li> <li>・校内研究(3回)、小中連携(7回)での研究授業の実施、区内外の研究発表会への参加(区内1隣接区1)</li> <li>・日常の授業観察と指導・助言(管理職・教科指導専門員)</li> </ul>	授業公開 教員の自己評 価	教員の自己評 価95%以上実施	教員の自己評価100%	全教員が管理職・教科指導専門員による授業観察、足立スタンダードをもとにした指導を行った。	○

6 継	放課後補習	対象児童	随時	・担任に加えて、専科、学習支援ボランティア ・東京ベーシックドリルや計算ドリル等を活用して、学習の習慣化・学習内容の定着を図る	単元テスト (知識・技能系)	目標値を80%として通過率 低学年90% 中学年85% 高学年80% 以上の人数	目標値通過率 低学年：82% 中学年：80% 高学年：67%	単元ごとにつまづきのある児童に個別やグループで支援した。学習支援ボランティアは活用できなかった。	○
7 継	図書活動の充実	全児童 全教科 全時間	年間	・4年生以上学校図書館資料を活用して、年間10回以上探究活動を行う ・読み聞かせボランティア・教員による読み聞かせ	読書カード	全学年年間目標 50冊	50冊通過率(1月) 低学年：約85% 中学年：約70% 高学年：約50%	読書や図書館を使った探究活動を通して、落ち着いて考える力は向上した。	△
8 継	寺子屋タイム	対象児童 各学級 5人程度、 各教科	毎週木曜日 放課後45分	・担任+専科 ・教科書、計算ドリル、漢字ドリル等を活用して習熟、定着していない内容の補習を図る	単元テスト (知識・技能系)	目標値を80%として通過率 低学年90% 中学年85% 高学年80% 以上の人数	目標値通過率 低学年：82% 中学年：80% 高学年：67%	個別、グループで支援対象児に指導を行った。より、定着を図っていく必要がある。	○
9 継	コツおはカード	全学年 全員	月1回 第2週目	・家庭学習の定着を図る。 低学年…30分以上 中学年…45分以上 高学年…60分以上	コツおはカードの提出内容 全児童の達成率の調査	各月において、家庭学習の目標時間85%以上の達成率	各月の家庭学習の目標時間達成率90%	概ね達成できていると言えるが、学級によって差が見られた。	○
10 継	夏期補充カード	対象児童 各学年 10名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10日 各日60分	・担任、専科、学習ボランティア ・学力調査で分析した、学習内容の補充をプリント等を活用して理解を図る。	自作確認テスト(初日・最終日)	正答率の向上	参加者全員の正答率が向上した。	対象児童に会う教材を用意することができた。	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心をはぐくむ	規律ある行動
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果
			コメント・課題
			達成度

自己肯定感を高める 思いやりのある心を育む 規律ある行動をする	学校は楽しい95% 自分を肯定的に捉えられる90%  みそあじ全項目90%	学校は楽しい97% 自分には、よいところがある 92% みそあじ全項目93%	前年度より、自己肯定感が高まった。	○	
B 目標実現に向けた取組み			自己評価の際に記入		
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	学校は楽しい95% 自分を肯定的に捉えられる90%	・ふれあい月間の取組年3回 ・道徳授業の充実 ・課外スポーツクラブ・金管クラブ	学校は楽しい97% 自分には、よいところがある92% みそあじ全項目93%	前年度より、自己肯定感が高まった。学校が安全で楽しい場所であること、そこに自分の居場所があり、自分の可能性を広げられると捉えているのは、とてもよいことと考える。	○
思いやり的心を育てる	仲間との関わりが良好90%	・きょうだい班集会、全校遠足 ・きょうだい班活動 ・児童集会	児童会活動は、楽しい95%	学校や児童会、行事に対して95%以上の児童が肯定的に捉えている。心の安定が見られている。より、多くの児童が感じられるよう工夫していく。	○
読書に親しみ豊かな心を育む	進んで読書をする85% 読書の記録目標達成率90%	・朝読書週1回 ・読書教室(1・2年) ・読書月間の設定	進んで読書をする60%	図書委員会を中心に様々な取り組みをしている。より工夫して児童への啓蒙、児童の意欲や必要間を高めるために教師への研修をしていく必要がある。	△
規律ある行動をする	み(身支度) そ(掃除 外遊び) あ(挨拶 返事) じ(時間を守る) 各項目90%	・学級・学年・全校指導での指導の徹底、 ・生活習慣強化週間(月1回 1週間)の実施	み・身支度、名札 86% そ・そうじ、外遊び94% あ・あいさつ、返事94% じ・時間を守る 88%	適切な場で自ら必要な挨拶を意識してできるよう、今後も声かけをしていく。	○

## 6 まとめ

重点的な取組事項－3		健康な体づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上 日常的に運動に親しむ児童の育成		全種目の70%で区平均を上回る 児童の自己評価 項目 90%以上	区の平均を上回った種目は、男女各学年のべ96種目中、51種目の53%にとどまった。	柔軟性を高める指導を授業に取り入れるなど、授業改善を図る。教員研修や児童への啓発を通して運動の日常化を図る。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上	70%の種目数で区平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長縄跳び、持久走の取組、体育朝会の計画的な実施と実施方法の工夫・改善</li> <li>・調査結果を基にして強化領域の決定（投力・柔軟性）</li> </ul>	区の平均を上回った種目は、男女各学年のべ96種目中、51種目の53%にとどまった。	課題となっていた投力は向上している。柔軟性を高めるために授業前の準備運動に取り入れていく。	△
運動に親しむ 運動の日常化	外遊びを進んで 運動することが好き 各項目自己評価90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育指導技術向上のための実技研修</li> <li>・外遊びの奨励</li> <li>・のびのびタイムの実施</li> </ul>	外遊びを進んでする 83% 運動することが好き 83%	学年が上がるにつれて低くなる傾向がある。鉄棒や雲梯など固定遊具の遊びの紹介を行うなど、体育授業の充実、外遊びの啓発などを通して運動の日常化を図る。	△

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

4月に行われた区調査に於いては、目標値通過率が91%（算数）、93%（国語）という結果が出た。それまでの学校・家庭・地域が一体となった本校の学力向上に向けた取組の一つの成果と言える。この取組のよさを令和5年度中も維持し、また、ICT（AIドリル）を活用し令和6年度区調査を意識して学力向上に努めてきた。また、結果に満足せず、「読解力」「書くこと」の向上に焦点を当てた個別指導を従来の計算力向上に加えて行ってきた。これは、目標値は通過したが、より高めていくべき領域として焦点を当てている。

次年度も引き続き、足立スタンダードを基に「分かる喜び できる楽しさ」を追究し、児童の学力向上に向けて、家庭と密に連携して「読解力」「書くこと」を中心として策を講じていく。その際、児童一人一人の学習状況だけでなく、心の状況にも配慮して進めていくことは当然である。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校の学校教育へのご理解・ご支援には深く感謝申し上げます。

本校児童の授業中の学習姿勢（集中して話を聞く・発言する・ノートを書く）のよさは、家庭教育、地域のあり方、児童への接し方に起因していると考えております。そして、学校と歩調を合わせていただいていたからこそと実感しております。

今後も児童の成長のために地域のお力、家庭のお力をお借りしたいと存じます。

どうぞ引き続きよろしくお願い致します。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校は、家庭・地域と共にある。

家庭と地域を大切に、家庭と地域を愛する児童を育成していく。